

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 さぶらふ人々、ほどほどにつけてはよろこび思ふ。(源氏物語)

(訳) お仕える人々も、「」に応じて喜んでいる。

①控えめ ②思いの深さ ③人それぞれ ④それぞれの身分

2 わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。(徒然草)

(訳) たった二本の矢である、師匠の前で(そのうちの)一本を「」しようと思うだろうか(いや、思わない)。

①おろそかに ②大切に ③無関係に ④愚かに

3 なさけある人にて、瓶に花をさせり。(伊勢物語)

(訳) 「」のある人で、瓶に花を挿してある。

①情愛 ②情趣を解する心 ③人目を気にする心 ④思いやり

4 あはれ、いと寒しや。(源氏物語)

(訳) 「」、「」、ひどく寒いなあ。

①しみじみとして ②ああ ③どうしたものか ④やめてくれ

5 御灯明の影ほのかに透きて見ゆ。(源氏物語)

(訳) お灯明の「」がほのかに(御簾を)透けて見える。

①光 ②火 ③形 ④陰影

6 つひに本意のごとくあひにけり。(伊勢物語)

(訳) しまいに「」どおり結婚した。

①二人の約束 ②かねてからの願い ③親の期待 ④慎重な計画

7 文太といひて、年ごろの者あり。(文正草子)

(訳) 文太といって、「」召し使われている者がいる。

①少し前から ②最近 ③成人して ④長年

8 世の中に長恨歌といふ文を、物語にかきてある所あんなり。(更級日記)

(訳) この世に、「長恨歌」という「」を、(仮名の)物語に書き直して持っている人がいるようだ。

①伝説 ②手紙 ③書簡 ④漢詩

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 つれづれなる時は、これを友として遊行す。(方丈記)

(訳) 「」時は、これ(＝小童)を友としてぶらぶら歩く。

9 「」

10 少しの地をも、いたづらにおかんことは、益なきことなり。食ふ物・薬種などを植ゑおくべし。(徒然草)

(訳) 少しの土地も、「」(空けて)おくようなことは、無益なことだ。食物や薬になる草木を植えておくべきだ。

10 「」

11 それ、人の友とあるものは、富めるをたふとみ、ねんごろなるを先とす。(方丈記)

(訳) そもそも、世間の友人というものは、金のある者を尊び、「」者を(重んじて)第一にする。

11 「」

12 この源氏の物語、一の巻よりしてみな見せ給へ。(更級日記)

(訳) この源氏の「」を、一の巻から(終わりまで)全部お見せください。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語383訂版 P48～P57

- 1 「④」
- 2 「①」
- 3 「②」
- 4 「②」
- 5 「①」
- 6 「②」
- 7 「④」
- 8 「④」
- 9 「することもなく退屈な」
- 10 「むだに」
- 11 「親しい」
- 12 「物語」